

# 教育同窓会 会報

- ・教育学部
- ・人間社会学域  
学校教育学類
- ・大学院教育学研究科
- ・養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第6号 2016.3.22



## 「組織改革を巡って」

元 教育学部長  
金子 劭榮  
(金沢大学名誉教授・元副学長)

私が金沢大学教育学部に赴任したのは1975年で、当時は城内のキャンパスでした。その頃から、金沢大学教育学部が取り組んできた課題はとて多く、その解決のための議論が当然あり、さまざまな変革もありました。

私の僅か30年の教育学部在籍中の記憶は、変革の記憶であったようにも思えます。

私たちの考える変革は、勿論、より良い方向への変化を目指すものですが、現実には、発展的なプラスの変化がある一方で、深刻な課題も当然あります。利害の対立が顕在化することもあり、大切なものを捨てなければならないこともあり、そこには絶えず厳しい議論があります。

当時、大学の移転の決断を巡って、或いは移転後の建物の設計などについて、深夜に及ぶ教授会もありました。さまざまな真剣な議論の末、結局、文法経3学部が続いて、教育学部も1992年に現在の角間キャンパスに移りました。

特に角間移転した後には、教育学部を含めた金沢大学内の議論は以前とは比較にならないほど複雑で深刻なものだったように思います。私自身がだんだんと気楽な立場でなくなったせいかも知れません。私自身についても想像もしなかったことが次々に起こり、1996年から4年間、学部長を務めることにもなります。当然、当時の私にも気持ちの余裕は全くありませんでした。幸い教職員の方々から格別なサポートをいただいて、何とか勤めさせていただきました。その時期を中心に、変革のための多くの議論に加わりましたが、大所高所からみて、今振り返って考えてみますと、それらが適切な変革だったか、その評価は簡単ではありません。

当時、大学設置基準の大綱化が示され、金沢大

学でも、教養部の解体、教養教育(基礎教育)の改革、全学的な教員再配置、全学的な建物利用の再検討などが議論され、当時の教育学部は、教員定員や建物面積の抛出という厳しい課題を抱えることとなります。そしてまた、少子化に伴って教員採用削減が進み、教員養成定員の削減も余儀なくされることとなります。その一方で教員組織の弱体化を防ぐためにも、全国の教育学部は教員養成を主目的としないゼロ免課程と呼ばれる新課程を造ることとなります。

そのような改革にもかかわらず、当時の金沢大学教育学部は教員採用率が全国ワースト5に入ることも珍しくなく、妙な形で注目される情けない状況でした。それが現在では、全国でも1, 2位を競う成績とのことで、当時もがいていた当事者としては、夢のようなことで、関係された方々に深く感謝したい気持ちです。学部(学類)の先生方の指導の改善や、县市町教育委員会を含めた地域との連携など、さまざまな人たちの頑張りの成果です。

更にその後も、金沢大学も教育学部(現学校教育学類)も変わってきています。当時のいわゆる新課程も形を変えて教育学部(学校教育学類)からは切り離され、学校教育学類は大学院教育学研究科修士課程を含めて、教員養成に特化され、教職大学院が発足します。

どのような改革が実行されるにしても、その改革は、以前とは異なる学生の入学をもたらし、教員の関わり方を変えます。私自身も、改革が、それが目指した変化ばかりではなく、総合的に質的に私たちの教育研究活動を変え、その効果を変えることを実感しました。

どんな形で教育研究がなされようとも、金沢大学が、結果としていろんな意味で優れた人を育て教員を育てる大学として、今の時代に必要な役割を果たして欲しいと思っています。

最近の子どもたちを巡る問題が以前にも増して深刻なものも多く、しかも多様で、すべての子どもたちを健やかに育てたいと考えるにつけても強く思う思います。

最後になりましたが、金沢大学教育同窓会ならびに関係の皆様方の、ますますのご活躍とご発展を心からご期待申し上げます。

## シリーズ 大学を訪ねて③

### 学校教育学類附属

### 教育実践支援センター

センター長 大村 雅章



うとともに、その成果をもとに各プロジェクトへの支援を行います。

地域への教育支援としまして、教育委員会、教育センター、地域の諸学校との教育連携を推進するため、センターでは、各種事業および事業の窓口を行っています。学生の学校へのアシスタント派遣（金沢市内小学校へのティーチング・アシスタント）、学校教育学類の学校指導アドバイザー事業、学校教育学類研究員の窓口、教育フォーラムやセミナー、研修等実施しています。また、これらの事業の支援のため遠隔システムやWebノートの活用と拡充を試みています。

近年では金沢大学と石川県教育委員会との連携協定により、石川県内の教員を対象に学校教育学類および他学類の教員とともに『金大連携ゼミナール』の指導教員を行っています。平成27年度は、学校教育学類教員が開設する講座は4講座（大学全体では6講座）で多くの教員が担当しています。一方、学校教育学類の教員が助言者となり、石川県内の教員を対象とした研究集会も毎年行っています。

平成20年4月1日より、教育学部附属教育実践総合センターから、大学の学域再編にともない学校教育学類附属教育実践支援センターになりました。当センターでは、現代の教育課題に対応した研究開発を行うとともに、その成果をもとに地域の諸学校および教育機関に対して理論的実践的支援を行うことを目的としています。また、地域との教育連携の窓口としての役割も果たします。



当センターでは研究開発に主眼を置いており、現代の教育課題に対応した教育実践研究プロジェクト3つ、研究支援プロジェクト1つをおき、毎年研究開発を行うようにしています。

#### ①教育実践研究プロジェクト

##### 1) 地域学校経営プロジェクト

学校研究を対象に、校内の研修も含めた教員研修、学校評価、年間のカリキュラムに関する研究開発を行います。

##### 2) 授業力向上プロジェクトチーム

授業研究を対象に、授業計画、授業評価、教師の指導技術等に関する研究開発を行います。

##### 3) 学習支援プロジェクトチーム

学習支援に関わる教育相談、能力別支援、適応支援に関する研究開発を行います。

#### ②研究支援プロジェクト

##### 1) 学習環境プロジェクト

学習環境に関わるICT機器、インフラ、デジタルコンテンツおよびその他の教材に関する研究開発を行



このような取り組みなどを中心に当センターにおいては、教育学部、教育学研究科の専任教員の教育実践的な研究成果の場として、研究紀要「教育学・実践研究」を毎年発行しています。平成20年度からは、さらに教育実践的成果に焦点化し「教育実践研究」と改めて発行し、今年度で41号を数えます。

最後になりますが、学校教育学類建物屋上の天体望遠鏡を用いた観測会を毎年数回行っています。当センターホームページにて告知しておりますので、よろしければ是非ご参加下さい。

## 金沢大学体育同窓会 65周年総会・記念パーティー 開催

平成27年7月4日(土) ホテル金沢

平成27年7月4日(土)、ホテル金沢において金沢大学体育同窓会65周年総会および記念パーティーを開催しました。本同窓会も昨春卒業した63期生を加えて2,384名となりました。

総会では3期生の横山健氏による記念講演「体育同窓会の生立ち」の後、現学校教育学類准教授の横川剛士先生(50期)から組織改編にともなう「体育科の現在の状況」について説明がありました。現在、体育同窓会は学校教育学類保健体育専修と地域創造学類健康スポーツコースを巣立つ卒業生を会員として迎え入れています。組織改編にともない体育科もどう変化するか予測できない状況にありますが、本同窓会は今後も会員相互の親睦を図りながら、より力強く前に歩を進め、母校の発展と社会貢献を目指す会としてあり続けたいと思います。

総会に次いで開催された記念パーティーは恩師11名、会員約200名の皆様にご出席いただきました。北陸放送アナウンサー松村玲郎氏(44期)が司会を務め、「体育科の歌」を斉

唱、旧教員を代表し宮口尚義先生(6期)による祝辞の後、1期生綱春巳氏の乾杯の発声で祝宴が始まりました。一緒に汗を流した旧友との再会で、各テーブルは思い出話が尽きることはありませんでした。最後は石川県体育協会専務理事の向田和義氏(23期)の万歳三唱で締めました。

なお65周年の記念事業をお知らせしたところ、多数の会員の方々よりご賛同や応援をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げますと共に、会員皆様の益々のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。(宮口和義)



## S43年 中等科卒 同窓会 開催

平成27年6月20日(土) 四高交流館・片町赤玉・柿木島パーマムーン

開催の3年前、西東京に住む会社勤めの小伊藤が「やろう」と発起。急速に動き出したのは学友会と教育同窓会の支援である。欠落の多い名簿をベースに、幹事の人及び推進人となった岐阜の住職・三島君のお陰で名簿がほぼ埋まりました。死亡、病気、介護など移動不可能な人を除き、27年6月20日2時四高交流館に集い、6名の幹事の打ち合わせに従って、名札を付けたメンバーが近況報告。50年の歳月はそれぞれの奮闘ぶりと現在の様々な生き方を互いに示し合ったと思われまふ。茶話会、赤玉おでん、柿木島の音楽バーでのピアニストに合わせての歌など、お互い取り留めのない会話を重ねました。それぞれのアート、金沢及び現住する地での資産の目録作りに汗を流してきた姿はとても貴重なものと思えます。

会の進め方や会話から「我々はアナログの世界にいる」という感がありましたが、メール、

ITなど「デジタルの世界に立ち向かう」というパワーがなくなっても、アナログの良さを地域に伝え、地域に埋もれることなく、埋もれる「良きもの」を見出すことに関わって行こうとするアナログの「何か」を感じました。急速なイノベーションの進行で「ゆっくり、じっくり考える」「失敗が許される寛容な社会」に対して、より人間的な視点から出発する「アナログ発想」の重要性が潜んでいる。まだまだ現役のつもりで「学んでいこう」を認識した50年ぶりの会でした。(小伊藤)



## 教育同窓会 会計決算報告(H25・26年度)

平成25年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告 (H25.4～26.3)		
【収入】		
項目	金額(円)	備考
1 繰越金	1,507,624	
2 会費	1,553,060	25年度入学生73名 臨時同窓会費17名(62,440円)
3 利子	306	
合計	3,060,990	
【支出】		
項目	金額(円)	備考
1 会議費	10,680	代議員会お茶・交通費補助
2 通信費	36,300	住所変更連絡等料金後納郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	2,140	印刷用紙 封筒 など
4 分担金	0	
5 印刷送費	1,156,625	会報No4、封筒印刷、会報発送(10,013通)等
6 慶祝費	170,000	25年度卒業祝 図書カード(1,000円×170人)
7 その他	0	
合計	1,375,745	
収入総額3,060,990-支出総額1,375,745=1,685,245 【差引残高】 1,685,245円は26年度事業に繰り越し		

平成26年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告 (H26.4～27.3)		
【収入】		
項目	金額(円)	備考
1 繰越金	1,685,245	
2 会費	1,118,760	26年度入学生55名 臨時同窓会費3名(24,750円)
3 利子	409	
合計	2,804,414	
【支出】		
項目	金額(円)	備考
1 会議費	0	代議員会お茶・交通費補助
2 通信費	29,155	住所変更連絡等料金後納郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	4,611	印刷用紙 封筒 など
4 分担金	0	
5 印刷送費	1,158,574	会報No5、封筒印刷、会報発送(9,828通)等
6 慶祝費	160,000	26年度卒業祝 図書カード(1,000円×160人)
7 その他	8,000	会報原稿執筆謝礼(松原・古畑)
合計	1,360,340	
収入総額2,804,414-支出総額1,360,340=1,444,074 【差引残高】 1,444,074円は27年度事業に繰り越し		

### ☆☆☆学友支援室からのお知らせ☆☆☆

平成27年11月1日(日)、本学角間キャンパスにおいて、第9回金沢大学ホームカミングデイを開催しました。歓迎式典には176名、記念懇親交流会には159名の卒業生およびそのご家族等にご出席いただき、大変賑やかな1日になりました。歓迎式典では、山出 保 金沢大学学友会会長の祝辞、山崎光悦学長による歓迎挨拶、向 智里 理事・副学長による金沢大学の近況報告の後、金沢大学中国同窓会会長 王安麟 氏からメッセージをいただきました。記念講演では、「事業改革 その失敗と成功の要諦」と題し、株式会社アーク代表取締役社長 鈴木康夫氏(昭和45年工学部卒業)にご講演いただきました。引き続き、金沢大学学友会 第5回役員総会も開催され、次期役員が決定しました。

懇親交流会では、卒業生有志による「校歌」「北の都」の高唱があり、会は大いに盛り上がりました。第10回ホームカミングデイは、平成28年10月29日(土)に開催予定です。この前後日に同期生やサークル仲間のみなさまとの同窓会の開催をご計画いただき、懐かしい母校にぜひお越しください。

○金沢大学学友支援室ホームページ(ホームカミングデイの情報も掲載)

[http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad\\_gakuyu/index.html](http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html)

○学友支援ニュース・レター(学友支援室ホームページ内にPDF版を掲載)

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

### お願いとご案内

- ★同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催報告を、同封の返信用はがきで、事務局までご連絡ください。
- ★同窓会を開催するにあたって、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。
- ★臨時同窓会費(一口1,000円)にご協力ください。  
[ゆうちょ銀行]振替番号:00710-9-100435  
加入者名:金沢大学教育同窓会

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学事務局 学友支援室内  
Tel 076-264-5081  
[gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp)  
事務局長:本多芳樹(Tel 076-261-7539)

### 臨時同窓会費にご協力いただいた方々(平成27年度)

川上 幸夫(敬称略)

### 編集後記

1月末の地元紙に「教員就職率、金大3位」の見出しの記事が掲載されました。それによると、昨年3月の卒業生111人のうち、正規採用が61人、臨時的採用が20人、計81人で、教員の就職率は73%となり、国立大の44校の中で3番目だったとありました。大学の先生方のご尽力に感謝申し上げるとともに、私たちの後輩が現場で遺憾なく力を発揮し、教育の質の向上に寄与することを期待します。(副会長 澤野 記)